

平成26年度 第4回政策推進会議報告

日 時 5月20日 9時30分～10時40分

場 所 4-1会議室

出席者 19人

1 尼崎市新型インフルエンザ等対策行動計画(素案)に対する市民意見公募手続の結果及び尼崎市新型インフルエンザ等対策行動計画(案)の策定について

防災担当局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 行動計画についての勉強会をしてほしい。勉強会は、任務が多い保健部門や地域との窓口部門など局を絞って実施してもよい。医師会とも一緒に勉強会を実施できれば良いが、できれば県立病院にも勉強会に参加していただきたい。ただ、県立病院は県の病院であり、広域から患者を受け入れるという想定で任務を担うため、病院としての機能について市として過剰な期待はできない。実施時期も併せて検討していただきたい。

・行動計画(素案)を作成する際には、医師会も含めた保健部門と意見交換をしながら作成しているが、計画策定後の勉強会についても検討したい。

(市長) 医師会にも策定内容の報告を兼ねて、勉強会の場がもてるよう提案してほしい。

2 税務事務の改革改善の取り組み状況について

資産統括局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 具体的な事例は税務管理部の内容になっているが、私たちの業務全般にも共通でかわる大切なことが詰まった報告である。今後開かれる研修への参加が必須となっている職員はもちろんのこと、参加した方が良い関係部署の職員にも是非参加していただきたい。ホームページでこれまでの経緯経過を公表しているが、こういった研修を内部で実施していることも含めて公表した方がよい。

資産統括局長の話の中で重要だと感じたのが、マニュアルには決して正解が書かれているわけではなく、時代が変われば価値判断も変わるので、マニュアルという経験値の集積に基づいて、判断し、考え、議論した上で1つの結論を出して業務を進めていくという点だ。その一方で、マニュアルには正解が載っており、それにしがって業務を進めるという意識の職員も多い。マニュアルという名前だとそういった誤解を受ける可能性があるため、ポイントがきちんと伝わるよう工夫してほしい。若い人たちは正解を求める傾向が強くなっているという印象を受ける。正しいことはそんなに簡単に決まっていないことが多く、私たちは何が正しいのかという判断力を養うことが大事だという意識を組織の中で培っていかねばならない。

3 その他

- ・市民協働局長から、平成26年度春の10万人わがまちクリーン運動について報告。
- ・市民協働局長から、地域での事業展開説明会について説明。
- ・市民協働局長から、被爆体験DVD化事業について説明。
- ・水道事業管理者から、阪神水道企業団の尼崎浄水場特別開放イベント2014について説明。
- ・企画財政局長から、鞍山市小学生代表団受け入れについて説明。

以 上